

平成23年度第3四半期までの
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

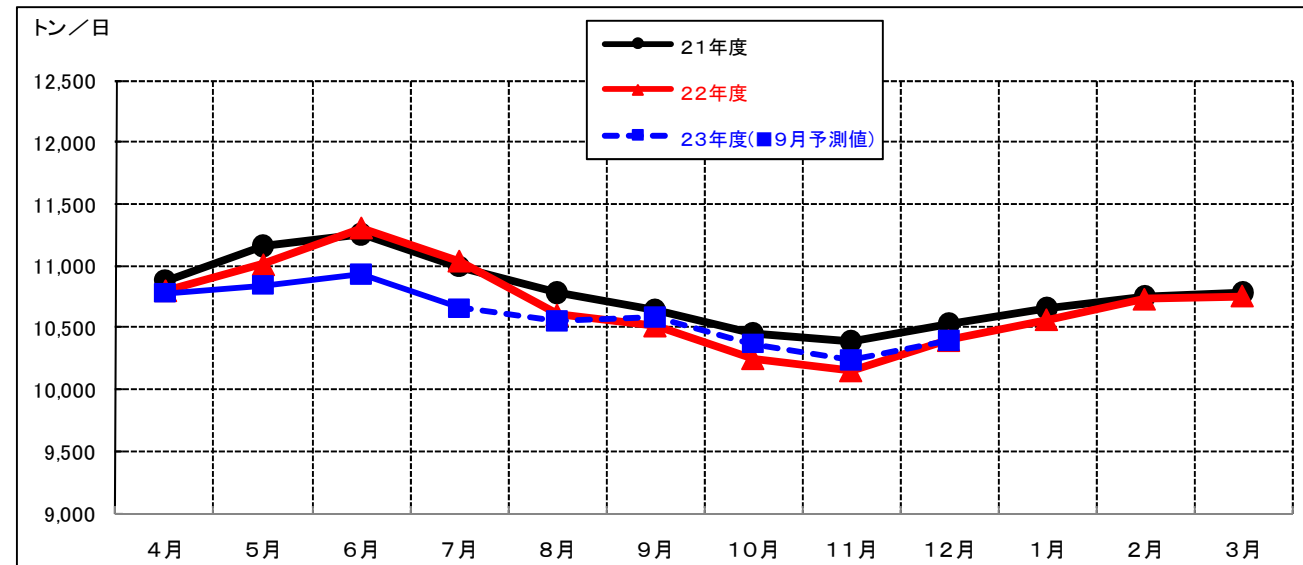
平成23年9月9日

需給委員会

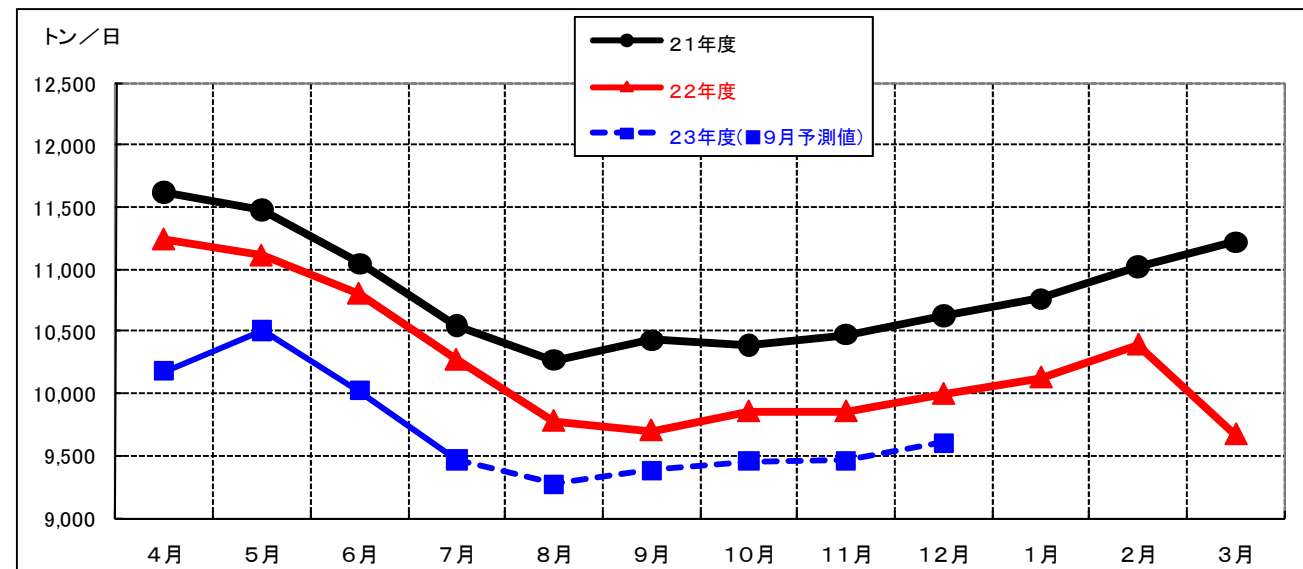
社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別の生乳生産量の動向

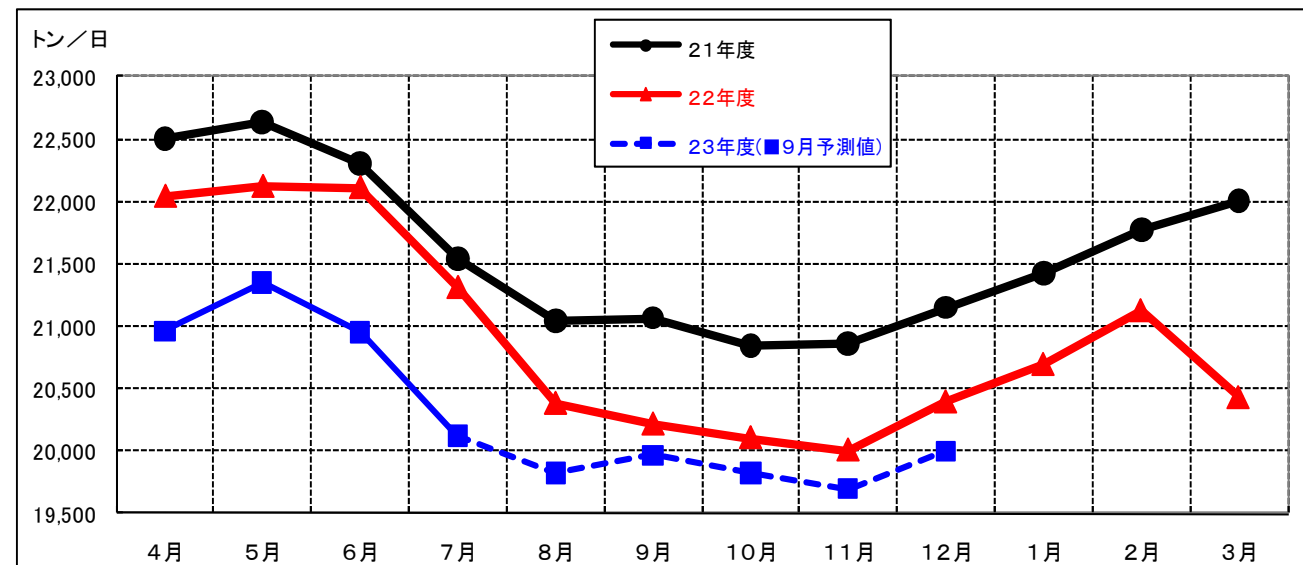
グラフ1-1：北海道の生産量(日均量)



グラフ1-2：都府県の生産量(日均量)



グラフ1-3：全国の生産量(日均量)



【生乳生産量予測の前提】

・生乳生産は震災等の影響で廃棄、出荷停止が発生しており、一旦その影響を排除した上で、平成23年度の生乳生産量を予測モデルで算出した。更に、それを基に震災等の影響、直近の動向を考慮し、東北地域他の値を修正した。
 ・なお、実績値が判明したものは予測値を実績値に置き換えている。

表1：平成23年度4～12月 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	629	95.1%	323	99.8%	305	90.6%
5月	662	96.5%	336	98.5%	326	94.6%
6月	629	94.8%	328	96.7%	301	92.8%
7月	624	94.4%	330	96.5%	293	92.2%
8月	614	97.3%	327	99.5%	287	94.8%
9月	599	98.8%	318	100.7%	281	96.7%
10月	615	98.6%	321	101.1%	293	96.0%
11月	591	98.5%	307	100.9%	284	96.0%
12月	620	98.1%	322	100.0%	298	96.1%
第1四半期	1,919	95.5%	987	98.3%	932	92.6%
第2四半期	1,837	96.8%	975	98.8%	862	94.5%
上期合計	3,756	96.1%	1,962	98.6%	1,794	93.5%
第3四半期	1,825	98.4%	951	100.7%	875	96.0%
合計	5,582	96.8%	2,913	99.2%	2,669	94.3%

【北海道】

・上期 1,962千トン(前年度実績対比98.6%、以降同じ)、第3四半期 951千トン(100.7%)で、4～12月合計 2,913千トン(99.2%)と見通される。

【都府県】

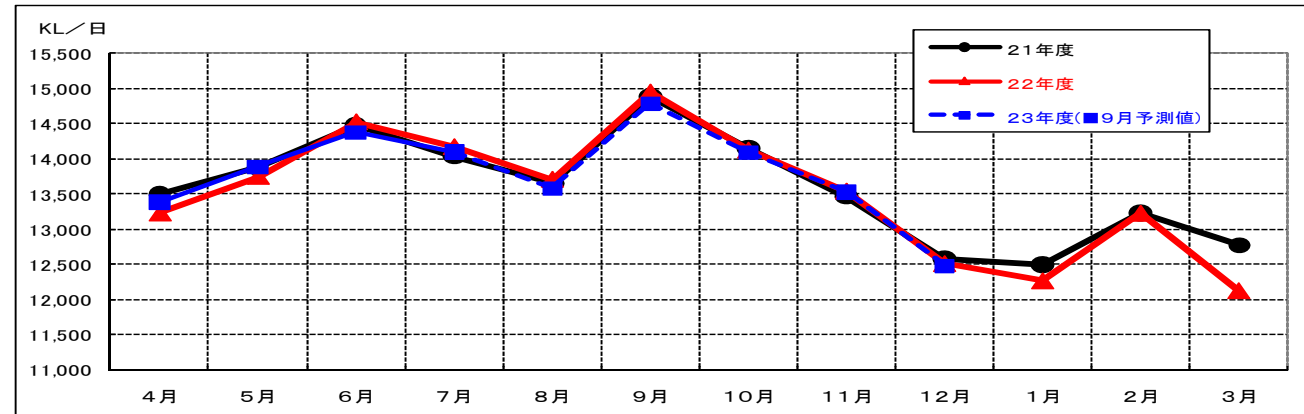
・上期 1,794千トン(93.5%)、第3四半期 875千トン(96.0%)で、4～12月合計 2,669千トン(94.3%)と見通される。

【全国】

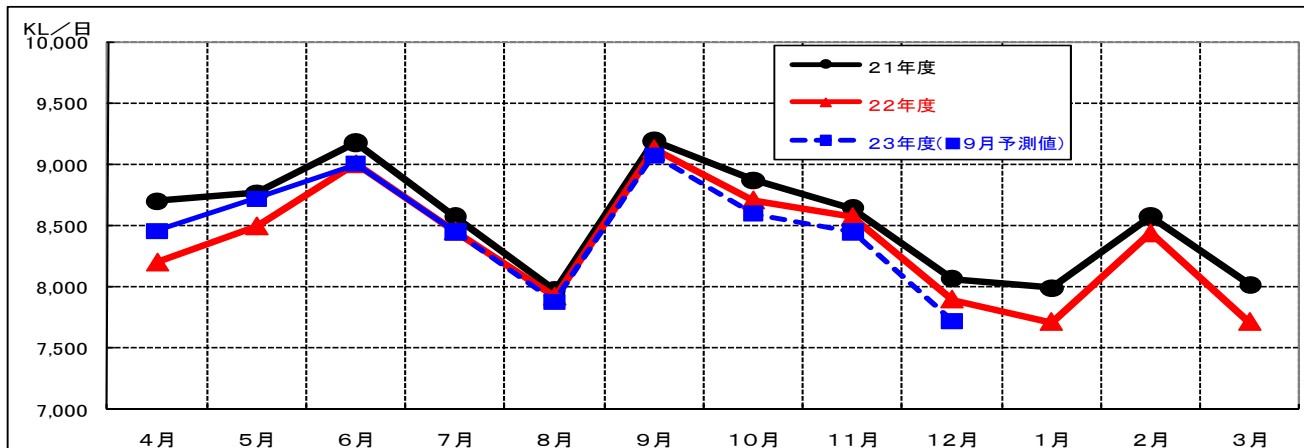
・全国トータルの生乳生産量は、上期 3,756千トン(96.1%)、第3四半期 1,825千トン(98.4%)で、4～12月合計 5,582千トン(96.8%)と見通される。

2. 牛乳等生産量の動向

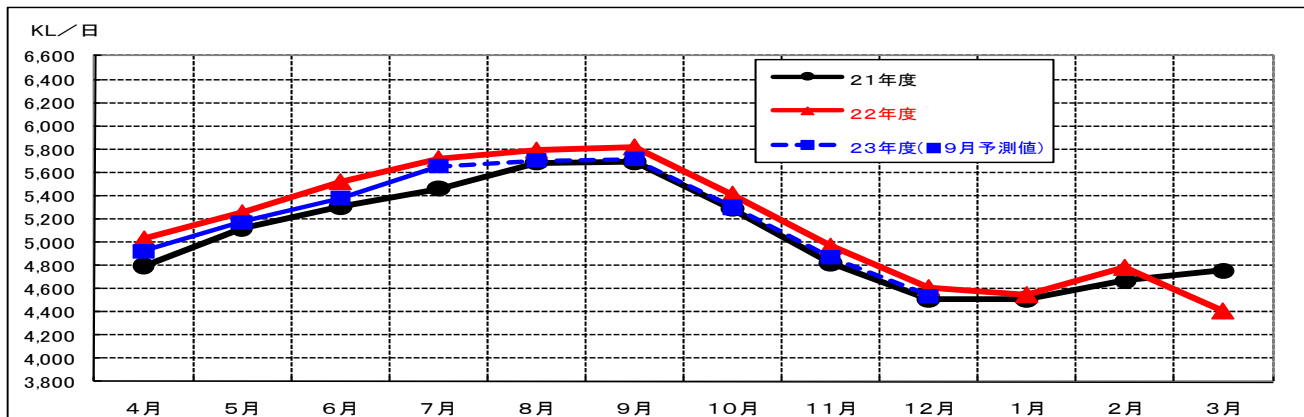
グラフ2-1：牛乳類の生産量(日均量)



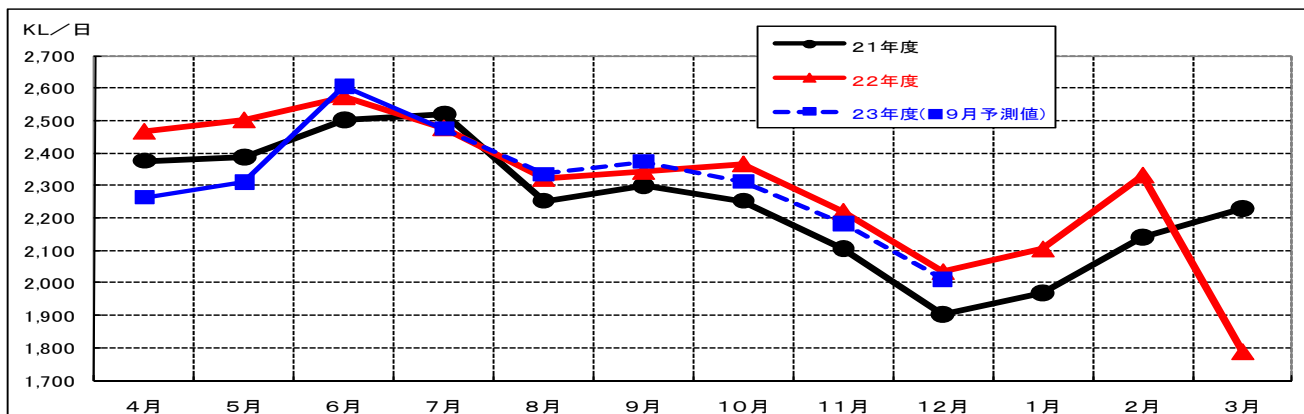
グラフ2-2：牛乳の生産量(日均量)



グラフ2-3：加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日均量)



グラフ2-4：はっ酵乳の生産量(日均量)



【牛乳等生産量予測の前提】

- ・牛乳等生産量は震災等により平成23年3、4月に牛乳等需要に影響があったとし、平成23年2月までの実績値と5～7月の実績値にて予測モデルで算出。更に直近の動向を考慮し、修正を加えた。
- ・なお、予測値で実績が判明したものは実績値に置き換えている。
- ・牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。
- ・「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

表2：平成23年度4～12月 牛乳等生産量の見通し

	牛乳類						はっ酵乳	
	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳			
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	401	101.2%	254	103.2%	148	97.9%	68	91.7%
5月	431	101.0%	270	102.6%	160	98.5%	72	92.3%
6月	431	99.0%	270	100.0%	161	97.5%	78	101.2%
7月	437	99.5%	262	99.9%	175	98.9%	77	99.9%
8月	421	99.1%	244	99.5%	177	98.5%	72	100.6%
9月	444	98.9%	272	99.4%	171	98.3%	71	101.3%
10月	431	98.4%	267	98.7%	164	97.9%	72	97.7%
11月	400	98.4%	253	98.6%	146	98.1%	65	98.3%
12月	380	98.0%	239	97.8%	141	98.4%	62	98.8%
第1四半期	1,264	100.4%	794	101.9%	469	98.0%	218	95.1%
第2四半期	1,302	99.2%	778	99.6%	523	98.6%	220	100.6%
上期合計	2,565	99.8%	1,573	100.7%	993	98.3%	438	97.8%
第3四半期	1,210	98.3%	759	98.4%	451	98.1%	199	98.2%
合計	3,776	99.3%	2,332	100.0%	1,444	98.2%	637	97.9%

【牛乳類：牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

- ・上期 2,565千kl (99.8%)、第3四半期 1,210千kl (98.3%) で、4～12月合計 3,776千kl (99.3%) と見通される。

【牛乳】

- ・上期 1,573千kl (100.7%)、第3四半期 759千kl (98.4%) で、4～12月合計 2,332千kl (100.0%) と見通される。

【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

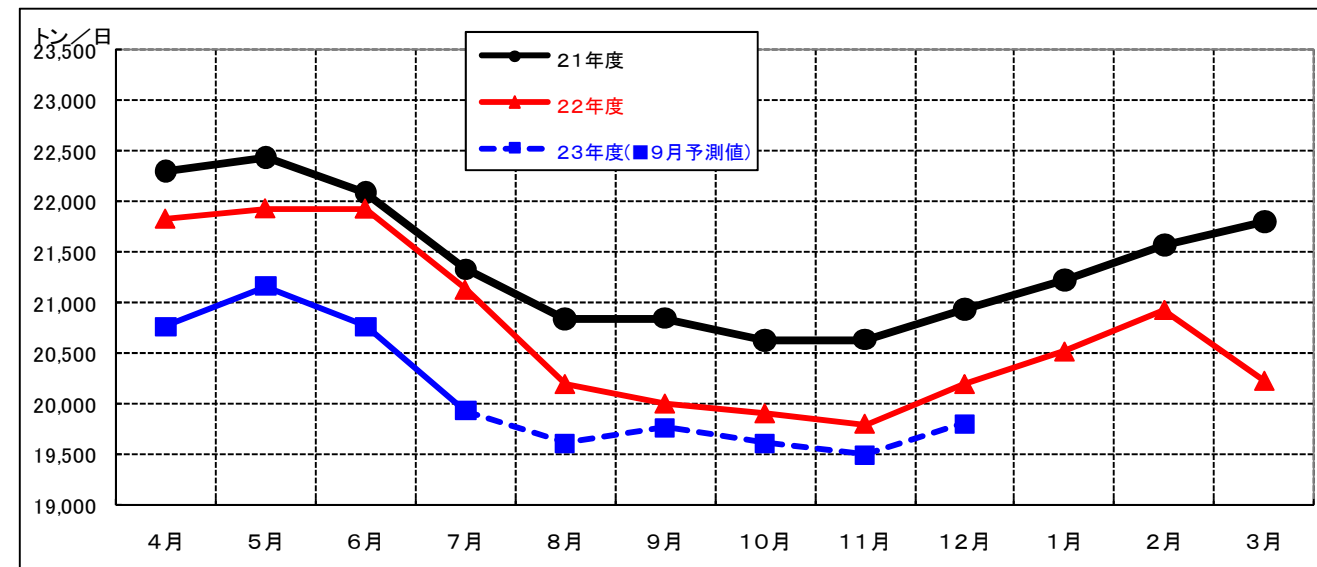
- ・上期 993千kl (98.3%)、第3四半期 451千kl (98.1%) で、4～12月合計 1,444千kl (98.2%) と見通される。

【はっ酵乳】

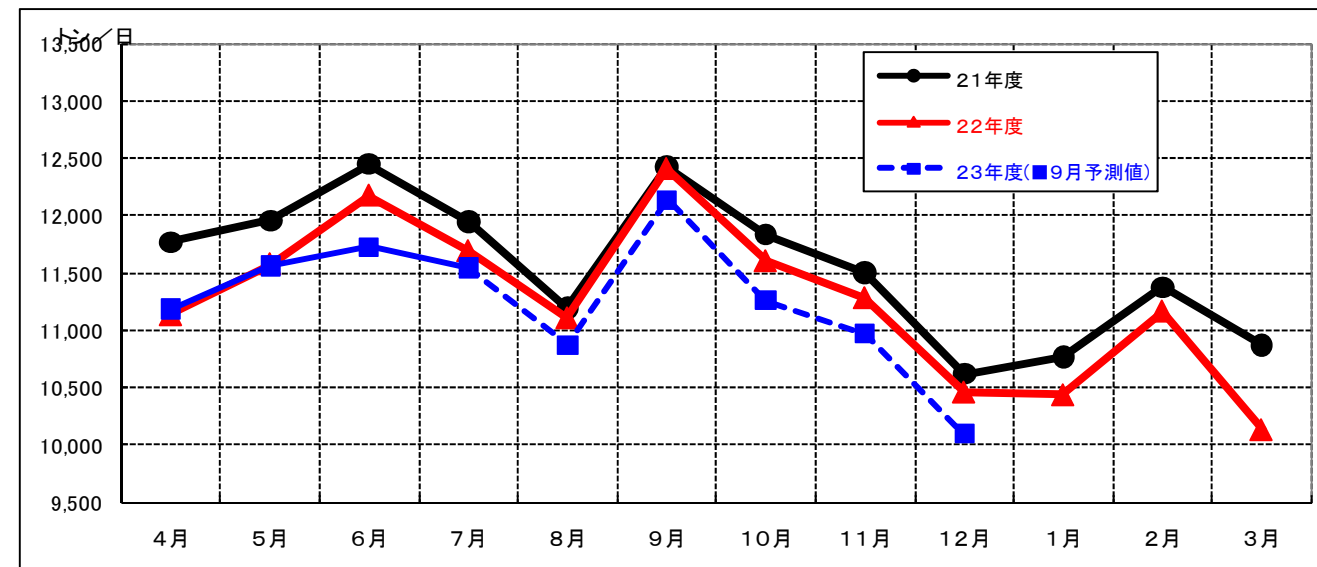
- ・上期 438千kl (97.8%)、第3四半期 199千kl (98.2%) で、4～12月合計 637千kl (97.9%) と見通される。

3. 用途別処理量の動向

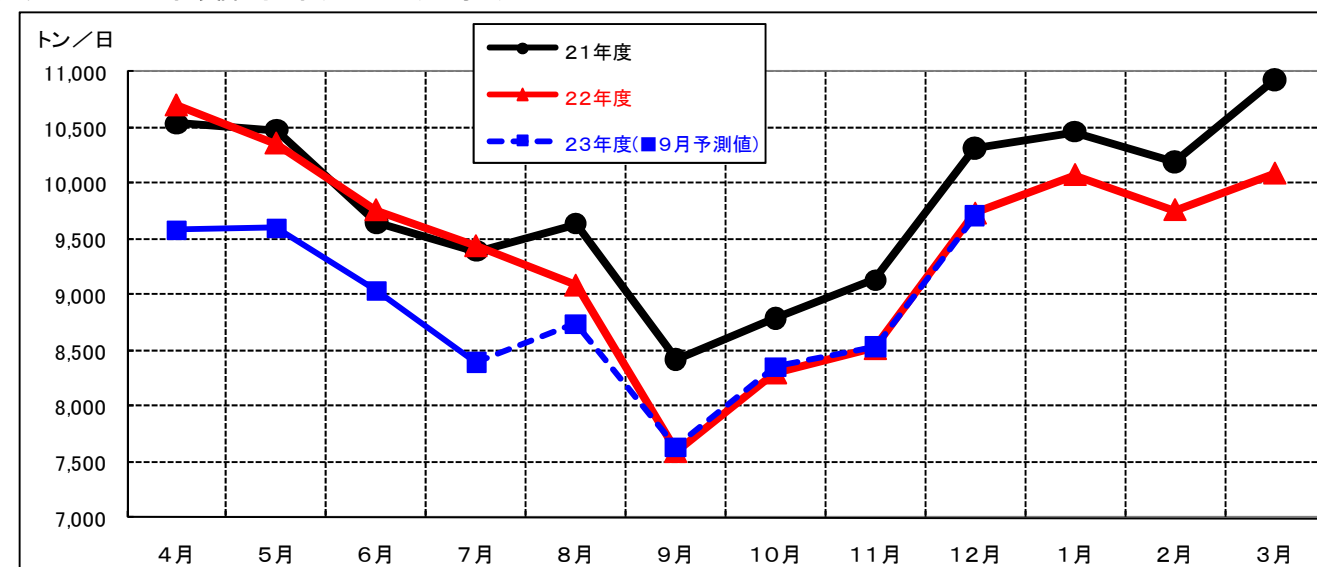
グラフ3-1：生乳供給量（全国・日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品向生乳処理量（日均量）



【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費を差し引いて算出(自家消費は、各地域の過去3年の伸び率を勘案して算出)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳・加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成23年度4～12月 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量	生乳供給量		牛乳等向		乳製品向		
		前年比			前年比		前年比		前年比	
4月	629	95.1%	5	92.2%	623	95.1%	335	100.4%	288	89.6%
5月	662	96.5%	5	92.3%	656	96.5%	358	99.9%	298	92.8%
6月	629	94.8%	5	91.9%	623	94.8%	352	96.3%	271	92.8%
7月	624	94.4%	6	93.5%	618	94.4%	358	98.7%	260	89.1%
8月	614	97.3%	6	96.7%	608	97.3%	337	97.9%	271	96.5%
9月	599	98.8%	6	96.9%	593	98.8%	364	97.9%	229	100.2%
10月	615	98.6%	6	98.3%	608	98.6%	349	97.2%	259	100.6%
11月	591	98.5%	6	98.8%	585	98.5%	329	97.2%	256	100.2%
12月	620	98.1%	6	97.9%	614	98.1%	313	96.7%	301	99.6%
第1四半期	1,919	95.5%	16	92.1%	1,903	95.5%	1,046	98.8%	857	91.7%
第2四半期	1,837	96.8%	17	95.7%	1,820	96.8%	1,059	98.2%	761	94.8%
上期合計	3,756	96.1%	34	94.0%	3,723	96.1%	2,105	98.5%	1,618	93.2%
第3四半期	1,825	98.4%	18	98.3%	1,807	98.4%	992	97.0%	816	100.1%
合計	5,582	96.8%	52	95.4%	5,530	96.8%	3,097	98.0%	2,433	95.4%

【生乳供給量】

・上期 3,723千トン(96.1%)、第3四半期 1,807千トン(98.4%)で、4～12月合計 5,530千トン(96.8%)と見通される。

【牛乳等向生乳処理量】

・上期 2,105千トン(98.5%)、第3四半期 992千トン(97.0%)で、4～12月合計 3,097千トン(98.0%)と見通される。

【乳製品向生乳処理量】

・上期 1,618千トン(93.2%)、第3四半期 816千トン(100.1%)で、4～12月合計 2,433千トン(95.4%)と見通される。

4. 都府県需給の見通し

表4：平成23年度4～12月 都府県の生乳需給の見通し

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A-B-C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比		
4月	303	90.6%	293	99.0%	14	102.2%	-4	26	124.9%	22	48.6%
5月	323	94.8%	313	98.2%	15	113.8%	-5	28	116.5%	23	70.4%
6月	298	92.9%	307	94.2%	14	108.3%	-22	36	108.1%	14	87.1%
7月	291	92.3%	309	96.3%	14	96.4%	-32	44	109.4%	12	60.0%
8月	284	94.9%	290	95.8%	15	100.0%	-21	36	92.4%	16	72.8%
9月	278	96.7%	316	96.5%	13	100.0%	-51	58	96.4%	7	96.9%
10月	290	96.0%	303	95.5%	15	100.0%	-28	42	98.6%	13	113.7%
11月	281	96.0%	285	95.5%	15	100.0%	-18	33	101.7%	15	118.0%
12月	294	96.1%	271	94.7%	16	100.0%	7	23	82.7%	30	94.8%
第1四半期	924	92.8%	913	97.1%	42	108.0%	-32	91	115.2%	59	62.8%
第2四半期	853	94.6%	915	96.3%	42	98.8%	-103	138	99.0%	35	71.2%
上期合計	1,777	93.6%	1,828	96.7%	84	103.2%	-135	229	104.8%	94	65.7%
第3四半期	865	96.0%	859	95.2%	46	100.0%	-40	98	95.3%	58	104.0%
合計	2,642	94.4%	2,687	96.2%	129	102.1%	-175	327	101.8%	152	76.4%

【都府県の生乳需給見通し】

- ・都府県における北海道からの搬入必要量（需要量）は、7月までは前年度を上回るが、その後は前年度を下回って推移すると見込まれる。
- ・都府県における特定乳製品向処理量は、9月までは前年度を下回って推移しているが、その後は前年度を上回って推移すると見込まれる。

5. 乳製品需給の見通し

【脱脂粉乳、バター需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理量は、「生乳供給量」-「牛乳等向」-「その他乳製品向」で算出。
- ・脱脂粉乳、バターの生産量は、上記算出数量に各々の製造係数（前年度同月数値使用）にて算出。
- ・消費量は、予測モデルで算出。（既存消費量の前年比は、前年度の新規需要創出数量を差し引いた数量で算出）
- ・在庫月数は、「在庫量」÷「前年度平均月消費量」で算出。

表5-1：平成23年度4～12月 脱脂粉乳の需給見通し

	生産量		輸入 売渡し	消費量				過不足	在庫量		
	前年比	前年比		既存消費量		その他	民間在庫量				
				前年比	前年比		月数		前年比		
4月	12.4	78.1%		13.0	93.8%	13.0	94.2%	-0.5	58.2	4.6	81.0%
5月	12.7	84.4%		12.7	104.9%	12.7	105.5%	0.0	58.2	4.6	77.9%
6月	10.5	87.1%		14.0	108.9%	14.0	110.5%	-3.5	54.7	4.3	73.9%
7月	8.7	75.8%		13.1	87.0%	13.1	89.7%	-4.4	50.3	4.0	70.9%
8月	9.5	89.5%		13.2	98.2%	13.2	102.0%	-3.7	46.7	3.7	68.5%
9月	6.8	91.6%		14.1	96.9%	14.1	102.0%	-7.3	39.4	3.1	64.1%
10月	8.9	91.5%		12.4	92.3%	12.4	97.6%	-3.6	35.8	2.8	62.1%
11月	9.9	92.0%		11.1	91.5%	11.1	97.6%	-1.2	34.6	2.7	61.4%
12月	14.0	96.4%		12.4	92.1%	12.4	97.6%	1.6	36.1	2.9	63.0%
第1四半期	35.7	82.8%		39.7	102.3%	39.7	103.1%	-4.0	54.7	4.3	73.9%
第2四半期	25.0	84.7%		40.3	93.9%	40.3	97.6%	-15.3	39.4	3.1	64.1%
上期合計	60.6	83.6%		80.0	97.9%	80.0	100.3%	-19.3	39.4	3.1	64.1%
第3四半期	32.7	93.6%		36.0	92.0%	36.0	97.6%	-3.2	36.1	2.9	63.0%
合計	93.4	86.9%		115.9	96.0%	115.9	99.4%	-22.6	36.1	2.9	63.0%

【脱脂粉乳の需給見通し】

- ・4～12月合計で、生産量は 93.4千トﾝ（86.9%）、消費量は 115.9千トﾝ（96.0%）と見通される。
- ・12月末の在庫量は 36.1千トﾝ（63.0%）で、在庫月数は 2.9ヶ月分と見通される。

表5-2：平成23年度4～12月 バターの需給見通し

	生産量		輸入 売渡し	消費量				過不足	在庫量		
	前年比	前年比		既存消費量		その他	民間在庫量				
				前年比	前年比		月数		前年比		
4月	5.7	72.8%		6.9	88.8%	6.9	88.8%	-1.3	19.3	2.8	59.5%
5月	5.9	79.9%	2.3	6.9	119.3%	6.9	119.4%	1.3	20.6	3.0	60.5%
6月	5.0	82.2%	2.5	6.8	113.2%	6.8	113.8%	0.6	21.2	3.1	62.1%
7月	4.3	76.5%	1.7	6.3	93.8%	6.3	95.5%	-0.3	21.0	3.1	62.9%
8月	4.6	89.5%	1.1	5.9	92.0%	5.9	94.1%	-0.2	20.8	3.0	63.9%
9月	3.1	91.6%	2.0	6.1	92.7%	6.1	94.1%	-1.1	19.7	2.9	66.1%
10月	4.1	91.5%	2.7	6.9	95.8%	6.9	97.7%	-0.2	19.5	2.9	71.5%
11月	4.3	92.0%	1.4	7.3	96.0%	7.3	97.7%	-1.6	17.9	2.6	73.4%
12月	5.5	96.4%		8.8	95.9%	8.8	97.7%	-3.3	14.7	2.1	69.7%
第1四半期	16.5	78.0%	4.8	20.7	105.3%	20.7	105.5%	0.6	21.2	3.1	62.1%
第2四半期	12.0	84.8%	4.8	18.3	92.9%	18.3	94.6%	-1.5	19.7	2.9	66.1%
上期合計	28.5	80.7%	9.6	39.0	99.1%	39.0	99.1%	-0.9	19.7	2.9	66.1%
第3四半期	14.0	93.6%	4.1	23.1	95.9%	23.1	97.7%	-5.1	14.7	2.1	69.7%
合計	42.5	84.5%	13.6	62.0	97.9%	62.0	99.2%	-6.0	14.7	2.1	69.7%

【バターの需給見通し】

- ・4～12月合計で、生産量は 42.5千トﾝ（84.5%）、消費量は 62.0千トﾝ（97.9%）と見通される。
- ・12月末の在庫量は 14.7千トﾝ（69.7%）で、在庫月数は 2.1ヶ月分と見通される。
- ・輸入売渡数量 13.6千トﾝは、当初予定されている輸入量 11.6千トﾝと追加輸入量 2.0千トﾝの合計である。

6. 生乳及び牛乳乳製品需給をめぐる情勢について

【生乳の生産及び供給】

- 生乳生産は、前年度の宮崎における口蹄疫発生や猛暑が残した影響が今年度にも引き続き影響を与えていることや、3月の東日本大震災による生乳生産基盤への直接の影響、その後の原発事故の影響による一部地域の生乳出荷停止などに加え、本年度も平年に比べ6月から気温が高く、前年度に比べ減少が続いている。
- しかし、北海道においては、本年度7月以降の分娩頭数の増加が見込まれ、今後の生乳生産は前年度を上回って推移すると予測される。
- こうした中、当面する生乳供給は前年度を下回って推移すると予測される。なお、前回8月時点で見通した生乳生産に比べ都府県はやや増加、北海道は同水準で推移すると予測される。

【牛乳乳製品及び生乳の需要】

- 牛乳乳製品の需要動向については、短期的には震災直後の牛乳乳製品のサプライチェーンの混乱により特異な様相を呈したが、現時点ではほぼ落ち着きを取り戻している。牛乳類については、前年度をやや下回る水準と予測される。乳製品については、バター、脱脂粉乳ともに前年度をやや下回る水準と予測される。
- わが国経済は円高基調やデフレ経済が続いていることに加え、東日本大震災直後は消費者行動に大きな影響があったと推察される。なお、その後の節電による生産・流通・消費への影響も懸念されたが、実際の影響はそれほど大きくない状況にある。今後の牛乳類の動向は、天候・気温、その他要因によっては需要が大きく左右されることも考えられ、引き続き需要動向を注視していく必要がある。

【生乳の需給】

- 以上の状況と本見通し策定の前提に立てば、当面する都府県の生乳需給は、供給が需要を下回る傾向が続くが、前回8月時点の見通しに比べやや緩和すると予測される。
- したがって、牛乳等向の需給については、北海道からの生乳移入の必要量が前回8月時点の見通しに比べやや減少して推移するものと予測される。
- 全国の乳製品向生乳処理量は、8月までは前年度を下回るが、その後は前年度並みで推移すると予測される。

【酪農乳業の課題と対応】

1. 牛乳類の最需要期における的確な対応

牛乳類の最需要期を迎え、生処が連携して計画的かつ天候・気温の変化などにも機敏に対応し、適正に需要に応える必要がある。また、北海道からの生乳移入については、過剰なオーダー等による混乱が生じることのないよう、関係者は十分な協議を行い、計画的な供給及び配乳の対応を行うことが必要である。

2. 乳製品需給の適正化について

乳製品需給は、需要以上に生産量が前年度を下回ることが予測される。しかしながら、バターの追加輸入が実施されることから、乳製品在庫は年末需要期に向けて一定水準の在庫が確保されると見込まれる。

今後も酪農乳業関係者は、需要期に向けてユーザーに対して安定的かつ適正に供給するために、乳製品向生産量の拡大とともに業界全体として計画的な供給と適正な流通に努める必要がある。更に、ユーザーが混乱を来さないように的確な需給情報の提供を継続する必要もある。

3. 酪農乳業の共通課題への取り組み

口蹄疫、猛暑、大震災、放射性物質問題の発生と酪農生産基盤を揺るがす問題が発生している中で、牛乳乳製品を安定供給するために、的確な需給予測に基づく需給調整を推進していく必要がある。

今後も、このような酪農乳業の共通課題について、両者が一体となって論議し取り組み、牛乳乳製品のサプライチェーンの安定的な持続を確保していく必要がある。

以上